

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2774002857		
法人名	株式会社 ビケンテクノ		
事業所名	メルシー緑が丘グループホーム		
所在地	大阪府豊中市少路1丁目8番22号		
自己評価作成日	平成 27年 9月 10日	評価結果市町村受理日	平成 27年 11月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2774002857-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 27年 10月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のグループホームは、駅や公園が近くにあり、9月にはホームの隣に新築で総合病院が出来る等、立地条件に恵まれ、入居者が安心・安全で暮らしが出来る、ゆとりのある運営を行っています。一人ひとりの生活スタイルを尊重し、「心豊かに、支え合う場」として安心した暮らしと、残像機能を最大限引き出し、日常生活に活かせるよう支援しています。

①手厚い人員配置(個別対応を重視)
 ②食の楽しみ(外食・出前寿司・手作り行事食・バイキング)
 ③生活習慣を大切にし、ご入居者の必要とされる時間に人員配置

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護付き有料老人ホームや長期療養型病院等を全国に開設し、手厚い人員配置と個別対応を重視した支援を展開している株式会社ビケンテクノが運営する2ユニットのグループホームです。ホームは駅に近く公園や医療機関に隣接するなど環境に恵まれています。調理担当職員を配置して、新鮮な食材で手作りの家庭料理を提供して食を楽しむ支援をしています。地域ボランティアの協力を得てクラブ活動やレクリエーション、アニマルセラピー等に取り組み、一人ひとりの希望に副った日常生活支援を行いながら、利用者の持てる力を活かして自立支援を進めています。利用者は明るく家庭的な雰囲気の中で、自由にのびのびと過ごしています。管理者は職員の育成に力を入れ、職員は熱心に学びながら利用者サービスの向上に取り組んでいます。年間を通じて家族交流会を開催し、家族との連携を図りながらホーム運営を進めています。行政との連携も良く、法人のバックアップもあることから、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で住み慣れた環境の中で、個々人の生活習慣を大切に、安心した生活が送れるよう努めている。又玄関入口に掲示し、毎日合同申し送り時に全員で唱和し理念を共有し実践に繋げている。	「家庭的で落ち着いた雰囲気の中で共に支え合い共感する」「ありがとうと言合える日々の暮らし」「地域の中で、自分らしく生き、過ごせる我が家」を理念としています。理念は玄関等に掲示し共有しています。理念は職員間で話し合っ て作った経過もあり、職員一人ひとりが理念に副った利用者支援に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の公園での散歩やお買い物に出掛け、地域の方と挨拶を交わし、日常的に交流する機会も多く、又地域の行事やふれあいサロンに参加する等、交流を広げている。	利用者は近隣への散歩や買物、月2回公民館で開催される地域ふれあいサロン等に出かけ、近隣の人々と交流する機会を持っています。また、保育園児との交流会、小学校の運動会見学や文化祭への参加、中学校の職業体験受け入れなど、年間を通じて児童生徒とも交流の機会を持っています。職員は折り紙、アレンジフラワー、ドッグセラピー、コーラス、クラフト、書道、歌体操、お琴演奏会、お話ボランティアなど、地域ボランティアの協力を得たクラブ活動やレクリエーション活動を進めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解を深めて頂く為、地域の子供会へ廃品回収等リサイクルへの協力や中学校の職場体験・ボランティアの受け入れやホームの開放を気軽に利用していただけるよう呼びかけ地域貢献へと努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催の中で、活動・取組状況等報告し、意見や助言を頂き質の高いサービスに繋げている。	運営推進会議は規約を定め、3カ月に1回、年4回の定期開催をしています。会議メンバーには、利用者代表、校区福祉委員代表、社会福祉協議会介護相談員、地域包括支援センター職員、市職員等が参加しています。最近の会議では、一人ひとりを大切にした支援、自立支援、地区ふれあいサロン、敬老の集い、地域交流、ボランティア活動、利用者の特技と役割、作品展等が話題となり、活発な意見交換を行っています。会議で出された意見や助言については速やかにホーム運営に活かしています。	運営推進会議は2カ月に1回の開催としてはいかがでしょうか。また、会議メンバーとして利用者家族の参加を呼びかけてはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員が運営推進会議等に参加する中での情報交換や又市町村が有効な場として位置づけ市の窓口に出向き手続きや相談、指導を受ける等、連携を築けるよう努めている	管理者は何かあれば市の担当課に相談をして助言を得ています。また、必要時には担当課に出向き、報告書等の提出を行い、相互に情報交換をして協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し年間研修計画に取り入れ、身体拘束しないケアを職員間で認識している。フロア入口のテンキーを解除し、他フロアを自由に行き来出来るようにしている。1階玄関に関しては、安全面に考量し、施錠している。開放感のある工夫や、希望時に外出が出来るような人員体制を整えている。	運営規程に「身体拘束等の禁止」を明記し、身体拘束に関するマニュアルを作成して、拘束を行わないケアを徹底しています。職員は研修や日々のミーティング等で利用者の人権や尊厳を守るケアの実践状況について相互に確認をしています。フロア玄関やエレベーターには鍵をかけず、利用者が各階を自由に行き来できるようにしています。利用者が外出を希望される場合には職員が付き添い支援を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や防止マニュアルを熟知し、相手の立場に立った視点での虐待の理解を深め、日々の対話・対応の中で自己判断のみとならないよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会があれば参加させて頂き、活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書、契約書を読み上げ、十分に説明し、納得したうえで契約を交わしている。解約時は納得して頂けるよう、医療、福祉機関等、連携し退居の為に必要な支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で、入居者個々が不満や思い等、引き出せるようゆっくり関わる時間を作っている。ご意見箱を設置し、家族会や面会時、カンファレンス等に参加して頂き、気軽に意見や要望を聞かせて頂き運営に反映している。	家族来訪時には職員から挨拶をして意見や要望を聞くようにしています。また、電話やEメールでの連絡時にも用件だけでなく、意見や要望について確認し、職員間で共有し対応しています。年数回の家族交流会を開催し、家族間の交流を促進しながら、意見や要望についても聴取しホーム運営に活かしています。ホーム内に意見箱を設置し意見を出しやすいようにしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・フロアミーティング、カンファレンス等に、職員からの意見・要望等を聴く機会を設け働きやすい環境づくりに努め、利用者のケアの質の向上に繋げている。管理者も夜勤や現場に入り利用者、職員の心身の状況を把握するようにしている。 職員の個別面談を年一回実施し、意見を聴く機会を設けるよう心がけているが、今年は実施できていない。	管理者は日常的に職員の意見を聞き、働きやすい環境づくりに努めながら利用者サービスの向上に繋げています。月1回の職員会議、フロアミーティング等で出された意見や提案については、上層部とも相談して運営に活かしています。管理者は、年に1回職員と個別面談を行い、一人ひとりの状況を把握して対応するよう努めています。職員の定着率が高いことから、職員の意見が反映され、働きやすい環境づくりが進んでいることが理解できます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、自己評価を実施し、職員ひとり一人の状況の把握に努め、個々の努力や実力、勤務状況を把握し評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て社内研修を実施し、又外部研修に参加し研修発表を行い、全職員が共有しスキルアップに繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や、地域ネットワークへ参加し、グループワークにて活動を通し、サービスの向上へと取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が話しやすい環境、ゆったりとした時間を作り傾聴し、職員との信頼関係を築き上げ、本人の安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報収集すると共に、本人と家族の状況を理解し、意見・要望等聞かせて頂き、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を基に状況を理解し必要性を見極め本人にとってより良い環境で生活が出来るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来ないところをお手伝いさせて頂き、家族の一員として日々共に支え合いながら生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況を必要時家族に報告し、又、カンファレンス等に参加して頂き意見、要望を伺い、協力を頂きながら、共に本人を支えていくよう、より良い関係づくりを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄、大切にしてきた生活歴を把握し、背景等、十分に理解しながら、大切な人との交流と馴染みの場所へ出かける等の支援をしている。	職員は利用者の友人・知人が来訪されたら、ゆっくり話ができるように接待しています。また、建物内に喫茶コーナーを開設して利用者が来訪者と落ち着いて過ごせるように支援しています。地域のふれあいサロンに出かけて、地域の旧友と交流できる機会もあります。家族と連絡調整を行い利用者が家族と馴染みの場所へ出かけられるように支援しています。電話をかける際の支援、手紙やはがきを出す際の支援についても希望に副って対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の信頼と、より良い関係が保てるよう職員が架け橋となり、個々人の個性を把握し、必要時対応し共同生活が楽しいと思っていただけるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、入院先にお見舞いに行くことや、又家族様から手紙や電話にて現況報告や、相談等あり、支援に努めている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を聴き、意向に添えるよう、又意思疎通の困難な方も行動や表情を見逃すことなく思いを把握し、ゆっくり関わる時間を作り支援している。	職員は利用者の好みや意向をその都度確認しながら支援を進めています。言葉で表現がしにくい場合には、行動や表情で思いを理解し対応しています。職員間で利用者についての「気づき」を出し合い共有して、一人ひとりの気持ちに副った支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から生活環境、生活歴や習慣等、現状況に至る経過の情報を収集し、今迄の生活環境に近づけるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化を見逃さないよう観察するとともに、現状を把握し、個々に有する残存機能を発揮できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々利用者の気づきを記録し、都度カンファレンスで話し合い、現状に即し対応している。又3ヶ月のケアプラン見直しでは、家族様に参加して頂き、意見・要望を伺い、目標に対しての評価を行い介護計画を作成している。	介護計画書は、利用者・家族の意向を反映し、職員の気づきをもとに、カンファレンスで話し合い作成しています。介護計画書は月に1回モニタリングを行い、3ヶ月毎に見直しをしています。その際、カンファレンスにはできるだけ家族の参加が得られるように日程調整をするなど配慮しています。介護計画書は職員が取り組みやすいように独自の工夫をして具体化し、実施経過も分かりやすく記載しています。また、利用者の状態や内容に変化があった場合は、その都度見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌・個別チェック表・経過表で情報を共有し、ケアプランノ評価を日々行い変化が生じた場合、気づきノートに記載し、随時カンファレンスを行いケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族より要望や意見を伺い状況、状態で都度話し合い、必要とするサービス情報を提供し、柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動(ふれあいサロン、敬老会)への参加や保育園児との交流、図書館の利用等、又、本人が得意とする作品を地域の作品展示会に出展するなど、心身の力を発揮しながら豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の意向を確認し、本人、家族がかかりつけ医の受診を希望される場合は継続して頂いている ホームの提携医との24時間連携、月2回の往診により利用者の健康管理を行っている。又他に専門医への受診支援も行っている。	利用者・家族の希望に副った医療機関で受診できるように支援しています。受診については、家族の同行が原則ですが、家族の都合がつかない場合や急な状況の変化がある場合にはホーム職員が付き添い支援をしています。専門医受診や緊急時の対応等についても、利用者・家族の意向を尊重し、適切な医療が受けられるように支援しています。ホームでは看護職員を配置し、提携医師と連携して24時間医療連携支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護師が従事しており、又提携医である看護師との24時間オンコール対応を行い状態変化や気づき等、連絡相談を行い24時間連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療できるよう又、入・退院時の利用者に関する情報交換や相談に医療機関と密に連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や、入居当初に終末期の在り方等、説明し本人、家族の要望を確認している。主治医、家族、職員間で話し合い「出来る事、出来ない事」を見極め方針を共有し支援し取り組んでいる。	終末期支援については入居時に「できるだけ希望に副った支援を行う」方針であることを利用者・家族に説明し意向確認をしています。重度化した場合の対応については医師、看護師、家族と相談しながら、ホームで出来る限りの支援を行っています。ホームではこれまでに看取り支援を行った経験があり、今後も引き続き利用者家族の意向に副った支援を進める方針です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部・内部研修に参加し、急変や事故発生時のマニュアルをスタッフルームに掲示し又、諸注意及びチェック表に基づきすべての職員が対応できるよう緊急対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難・消防訓練を消防署員の協力を得て夜間想定も含め利用者参加のもと実施している。	消防署と連携して年2回の防災避難訓練を行っています。隣接する法人施設と連携して夜間想定も含めた避難訓練を行い、写真入りで記録に残しています。地域との協力体制については近隣に民家がないため、隣接する医療機関に非常時の支援協力を依頼しています。非常時に備えてホーム内に2～3日分の水や食料品等を備蓄しています。備蓄用食品と水の一部は災害時に持ち出せるように大袋にまとめて保管し、「非常持ち出し用」としています。	災害時の協力体制については隣接する医療機関に協力依頼をしていますが、今後は非常口の状況や避難経路等、詳細についても相互に理解を深め、協力体制を築いていく予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の入社時には、秘密保持に関する誓約書を交わし周知徹底している。利用者を尊重し、尊厳を守り、家族のように親しみのある会話で信頼関係を築いている。又利用者ひとり一人のプライドや生活背景に配慮した支援に努めている。	管理者は、利用者一人ひとりの人格や生活スタイルを尊重し、家族のように親しみのある接し方で支援に取り組むよう職員へ指導しています。職員は接遇や法令順守等の研修を受けています。新任職員は、オリエンテーションで「認知症」と「グループホーム」について理解をすることから始め、利用者がその人らしい暮らしを続けるための支援について学びます。職員の接し方は、丁寧でやさしく、利用者一人ひとりの自尊心や生活背景に配慮し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや声かけをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	個々の思いや希望が言えるような環境に配慮し、個々に合った対応と意思表示できない利用者に対し、言動や表情を観察し、くみ取り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣及び生活リズムを把握し、ペースを大切に希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて理美容の利用を支援し、身だしなみや洋服を自身で選べるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味噌汁作り、盛り付け、配茶等、それぞれの方の得意とされる事を役割とし、又、利用者の好きな食べ物を聴きメニューに取り入れる等、楽しみと自信に繋がるよう支援している。月一回の行事食や出前も楽しみとしている。	ホームでは、3食調理しています。職員は「食事」を1日の大切な活動のひとつであると認識しながら、支援に取り組んでいます。利用者が食事を通して季節を感じ、より楽しめるように「旬の食材」を使った食事を提供しています。食事委員は利用者からアンケートを取り、好みや希望、苦手な食材などを細かく聞き取り、献立づくりにつなげています。調理担当職員と利用者は相談しながら1週間の献立を決定し、食材を吟味しています。職員は、利用者と共にホームの畑で収穫した野菜、地域の魚市場や肉屋等から購入した魚や肉類等の食材を使って一緒に調理しています。手作りの行事食やおやつ、出前寿司等も楽しみごとの一つです。また、同法人有料老人ホームでのバーベキュー大会や屋台等への参加は利用者・家族、職員が共に楽しめる機会になっています。利用者は、畑の水やりやぬか漬けの担当等、一人ひとりが得意とする役割を担っています。職員は利用者と同じ食事を一緒に摂り、会話を楽しみながら、さりげない声かけや見守りをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	水分の必要量を摂取するよう声掛け や、好みの飲み物を提供する等、又水 分調整や体重制限が必要な方等スト レスとならないよう盛り付けや、塩分調 整する等工夫し、摂取量を把握し、記 録にて健康保持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施。月一回歯科 往診にて定期検診を行い歯科医の所 見にて個々に指示を頂き本人の力に 応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄間隔を 個々に把握し、プライバシーに配慮し つつトイレ誘導を行い支援している。紙 パンツ使用の方も日中は布パンツを使 用して頂き快適に過ごして頂けるよう 努めている。	ホームでは、トイレでの排泄を基本と し、利用者の羞恥心や不安の軽減、清 潔保持に努めています。「利用者自身 でできること」は行ってもらい、自立に 向けた支援に取り組み、成果を上げて います。職員は、利用者一人ひとりの 排泄パターンや習慣を把握し、排泄チ ェック表を活用しながら、声かけやトイ レ誘導等を行い、利用者が快適に過ご せるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認と水分摂取の把握及び適度な運動を個々に働きかけ取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる環境となっている。個々の希望や習慣に出来るだけ近づけるよう努めている。ゆず湯・菖蒲湯・入浴剤で気分転換を図り、入浴を楽しめるよう支援している。	ホームでは、毎日入浴ができる環境を整えています。職員は、利用者一人ひとりの習慣やその日の希望に合わせて入浴支援に取り組み、利用者は概ね週3回程度の入浴をしています。菖蒲湯等の行事風呂を提供し、利用者がより入浴を楽しむことができるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を理解し、日中は、日光浴や適度の運動や散歩に出かけてもらい程よい疲れを感じて頂き、夜間安眠の確保を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書内容(相互作用・注意事項・副作用)を確認理解し、症状の変化を観察するよう努めている。 ※薬の飲み残しや誤薬はないか確認したうえで、与薬者サインし、記録で残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意とされる事を見出し個々に役割とし自信と楽しみとなるよう又、趣味や楽しみとしてきたことを継続できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、地域での活動に参加するなど、積極的に行い、個々で事前に希望を伺いゆっくりと出かけられるよう個別にて外出を計画し実行している。交通機関を利用し、買い物や行きつけのお店で外食等々、今迄楽しみとしていたことを継続できることの支援をしている。	ホームでは、利用者一人ひとりの希望や楽しみごとを継続するために、個別の外出支援を積極的に取り組んでいます。利用者は公園への散歩、近隣のお店での買物や外食、地域ふれあいサロン等に出かけています。また、花見や遠足等、季節を満喫するために年間行事を開催し、利用者が外出を楽しめるようにしています。職員は一人ひとりの外出状況を細かく記録して支援に活かしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者で自己管理できる方には、少額程度は所持して頂き、又小口(3千円程度)をホームで預かり管理し、買い物時は、本人に財布を手渡し支払いをしてもらっている。毎月出納帳をコピーしレシートを添付し家族に郵送している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望をされる際、都度対応し、家族や友人へ手紙のやり取りが出来るよう又、手作りの便せんやはがきを作成し、通信を楽しめる支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部の環境や日ざし、音、湿・温等、快適な生活空間であるよう心がけ又、季節を感じて頂く為の装飾やリビングにソファやテーブルを置きゆったりと落ち着いた雰囲気づくりに工夫している。	ホームは建物の2階、3階に位置しており、リビングからは遠くの山並みや市街地が眺望できます。近くにはモノレールが走り、眼下には公園が一望できるという恵まれた環境があります。リビングにはソファやイスを置き、図書コーナーも設けるなど、利用者がいつでもくつろげるスペースとしています。乾湿・温度計を配置し空調にも配慮しています。同建物2階に喫茶コーナーを設けて、利用者と来訪した家族、友人等が活用できるように支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に落ち着ける場として、廊下にベンチや椅子を設置し、個々が自由にくつろげる居場所を工夫している。 又、リビングにソファやテーブルを設置し、気の合う利用者同士で、ゆったりとお茶を飲み過ごせるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や置物、思い出のアルバム、仏壇等、今迄の生活環境に近づけ居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者は使いなれた家具や仏壇、好みの装飾品を持参し、手作りの作品やお花、写真などを飾って、一人ひとりが特徴のある居室にしています。室内は清潔に整えられ、窓を開けて換気を行うなど、職員は利用者が居心地良く過ごせるように支援しています。室内には備え付けの洗面台、ベッドを用意し、乾湿・温度計を置いて空調にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札を掲げ、廊下、トイレ、ふろ場には手すりをつけ、危険な場所には、表示するなど、又タンスの引き出し等に衣類、小物の表示をし、混乱や障害がないように配慮し、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		